

優勝は 3 年 2 組、準優勝は 3 年 1 組でした。

第 11 回

体育大会開催

今年の大会も各クラスが自分たちでデザインした個性溢れるクラス旗を先頭に、一糸乱れぬ入場行進で幕を開けました。この行進も得点に加算されるため、生徒たちの目は真剣そのもので、体育の授業で練習を重ねた成果を感じさせる、威風堂々とした行進でした。



競技方法は、基本的に、前期・後期それぞれに分かれての対戦ですが、団体種目に限って前期・後期が入り混じつて対決するところに中等教育学校の特色が表れます。(もちろん、少しハンデキアップはつけますが・・・)一年生から六年生までの生徒が一緒になって真剣勝負しています。

県立樅原公苑陸上競技場において第十一回体育大会が盛大に開催されました。

六月一日（火）

県立樅原公苑陸上競技場において

聖心学園中等教育学校
学校通信「たけのこ」

第二号

登行 聖心学園中等教育学校
樅原市久米町二二二番地
平成二十七年十月三日発刊

題字 田中七葉書

礼節 誠実 勇氣 創造

今はあどけない生徒たちが、タケノコのようにすくすく育ち、しなやかでまっすぐな竹に成長してくれることを願って、学校通信を「たけのこ」と名付けました。

| | |
|----------------------|-------|
| 1. 体育大会 | P1 |
| 2. 体験の日 | P2～P6 |
| 3. 学習合宿 | P6～P7 |
| 4. 生徒部より | P7 |
| 5. 前期課程講演会 (JAXA) | P8 |
| 6. 模擬裁判 | P8 |

新種目「ウルトラクイズ」を追加しました。全生徒が未体験の種目ではありましたが、解答権獲得に向かつて猛ダッシュを繰り返し、白熱した競技になりました。体力に加えて知力も必要とするこの種目は、他種目とはまた異なる盛り上がりを見せてくれましたが、ルールなど一考の余地もあるかと思いますので、さらに検討を重ね来年の大会に繋げたいと思います。

また、大会中の生徒達の様子を見ていますと、普段教室では見せない表情や、仲間への思ひやりを見せる姿がうかがえました。こういったところにも体育大会の本質があるよう思います。これをきっかけに、各クラスが尚一層団結力を高め、これからの中等教育学校生活に生かしていくことを願っています。

最後に、ご多忙の中ご観覧とご声援いただきました保護者の皆様、ならびに、保護者参加競技に出場していただいた皆様、ご協力ありがとうございました。



◎『文化公演会』
十月二十四日（土）
かしはら万葉ホール
テーマ
第十一回 聖華祭
十一月一日（日）
本校

『永遠に響け、聖華の調べ』
（ハーモニー）

★お知らせ
《文化講演会と聖華祭の日程》

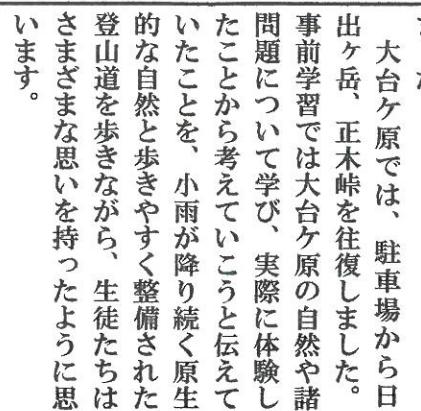
体験の日

I 年生

六月十九日（金）、一年生は初めての試みである「大台ヶ原登山」を行いました。

第二回

「梅雨の晴れ間」を祈つております。生徒たちは様々な場所から滝を見つめ、森林浴を楽しみました。「大滝ダム学べる防災ステーション」では、人間の知恵がどのように水しぶきの対比が美しい、高さ約五十メートル二段の滝があります。生徒たちは様々な場所から滝を見つめ、森林浴を楽しみました。



第三回

「生き物の世界を作ろう」をテーマに、粘土での造形制作に挑戦しました。

今日は奈良芸術短期大学陶芸コースの先生方のご指導による

「陶芸」です。

私たちの生活に関わり深く存在する「哺乳類・鳥類・甲殻類・爬虫類・軟体動物・昆虫類・両生類」から四十一種類を形作り、焼き物設計図を考えてきた生徒、イメージに合う置物を持つ生徒、それぞ

粘土の塊を前に考えこむ生徒、設計図を考えた生徒、イメージに合う置物を持つ生徒、それぞ

うか！」という顔があちこちに見受けられ、どんどん形が完成してきました。子どもたちの素晴らしさ

ヨーロピングルト館と第四回

大阪天満天神繁昌亭

第四回

「第四回体験の日」は、初の試みとして「明治ヨーロピングルト館」の見学と「大阪天満天神繁昌亭」での落語鑑賞にトライしました。

災害の恐ろしさについて分かりやすくお話をいただきました。また「雨を学ぶ」コーナーでは豪雨体験室で激しい雨の体験もしました。

大台ヶ原では、駐車場から日出ヶ岳、正木峠を往復しました。

事前学習では大台ヶ原の自然や諸問題について学び、実際に体験したことから考えていくこうと伝えていたことを、小雨が降り続く原生登山道を歩きながら、生徒たちはさまざまな思いを持つたように思っています。



▼ 生徒感想文

「・・・落語」を鑑賞することで、單に大笑いをするということだけではなく、話す技術を学びました。ぼくは話すのが下手です。それで上手に話す方法はないかと思つていました。落語家の話し方を見ればよいのではないかと思つていましたが、そんな機会はありませんでした。・・・今日の体験の日で気付いたことは、相手を引きつける

力を作り人たちは創意工夫や努力をどのように理解できるのか、そして日本の伝統芸能であり話術の一種である落語を鑑賞すること何を学ぶのか・・・と思ひながらの体験でしたが、生徒たちは私たちの思惑よりもはるかに多くのことを学んでくれたよう思います。」（米田君）

い感性、想像力、創造力、観察眼に私たちにはびっくりし楽しくなった第三回体験の日でした。

今年の聖華祭には焼きあがった作品を展示了します。どうぞ樂しみになさってください。

▼生徒感想文



第2回

大阪ガス科学館・関西国際空港

六月十九日（金）二年生は大阪府高石市に位置する大阪ガス・ガス科学館と関西国際空港を訪れました。檀原神宮前駅に集合し、バスでの移動でした。

2年生

午前中に訪れたガス科学館のホールでは、発電や断熱膨張、液体窒素「-196℃の世界」などの興味深い実験を見学し、その後五つのアトラクションブースをクラスごとに回り、参加型のクイズや実験、ゲーム等、楽しみながらエネルギーの重要性について学びました。

また、大阪ガスの施設がある構内をバスの車窓より見学し、スタッフの方の丁寧な説明のもと、都市ガスになるプロセスを詳しく学ぶことができました。生徒たちも初めて聞く話が多かったようで、熱心にメモを取りながらスタッフ



「今日は、明治ヨーグルト館も大阪天満天神繁昌亭も印象的でした。工場ではお店でよく見るヨーグルトや牛乳の製造工程を見学しました。製品に悪い菌が入らないように人の出入りが最小限に制限されていました。また清潔さによって、生産過程で分けられた各部屋の床の色を変えるということも知りました。部屋に入った従業員が自分の服装を意識しやすくなるそうです。食品を製造するためには、衛生面にこんなにも厳しい意識が必要なんだと思いました。」

（畔岡さん）

第3回

クラフト

7月21日（火）、2学年の体験の日は奈良芸術短期大学クラフトデザインコースの先生方のご指導のもと、クラフト作りの体験をしました。

今回の生徒作品は、本校の文化祭（聖華祭）で展示させていただきますので、ぜひ楽しみにお越しください。



花瓶にかぶせる布をアレンジするテキスタイル、手作りの時計を作るウッド、錫製の小皿を作るメタルという、三種のうちから一種を選んで挑戦しました。生徒たちはアイデアを凝らしながら、オリジナル作品を作ろうと真剣な眼差しで作業に励んでいました。細かなところまでの工夫がたくさん見られ、世界に一つしかない作品が出来上がりました。専門の先生方には丁寧にご指導いただき、生徒たちの表情からは完成した満足感と充実感あふれる笑顔が見られました。

昼食をガス科学館でいただいた後は、航空関係で働く人々の姿を間近に感じられる関西国際空港へ向かいました。まず、閑空展望棟集合写真を撮影した後、屋内スカ



や、管制塔・コックピットのシミュレーション等を体験しました。そして「わくわく関空見学プラン」では、バスに乗車してスタッフの方の楽しいクイズ形式のガイドを聞きながら、空港島内にある機内食工場やエアカーボ施設のある保安区域を車窓から見学しました。

最後に給油タンク付近の保安区域で下車し、世界各国からの旅客機や貨物機が着陸する様子や日本唯一の化学消防車の訓練の様子も目の当たりにすることができ、盛りだくさんの有意義な一日を過ごしました。

薬師寺を参拝したことのある生徒もいましたが、安田奘基錄事からご法話をいただけるという意味では初めて体験する生徒が多く、安田先生からは薬師寺の歴史や人としての心構えについて、身近な例を出しながら面白く、とても分かり易くお話をいただきました。その後、副住職の村上定運先生が

ユーモア溢れる巧みな話術で薬師寺境内を案内してくださいました。生徒たちも厳かな雰囲気を味わいつつも楽しそうに境内を見学し、普段知ることのできない貴重な体験ができました。昼食後の午後からはお写経の体験です。まず、袈裟を首に掛け、象の形をした香炉をまたいで身体を清め、丁子を

集合し、世界遺産に認定されている法相宗大本山薬師寺の拝観と写経の体験をしました。

藥師寺拜觀と
写經



くわえて着席します。墨のすり方や筆の使い方などの説明を受け、いざ写経となると思うように筆が動かないようで、生徒たちの顔も真剣そのもの。道場では一般の方に交じってお写経を体験し、ピント張り詰めた雰囲気の中、生徒たちは緊張の面持ちで硯に向かい、最後には無事に完成させて奉納することことができました。

生徒の感想

「初めて薬師寺に行きましたが、こんなに歴史が深い場所だと思っていませんでした。二十歳になつていい頃には、東塔の修復が終わっているので、見学に行きたいと思います。」

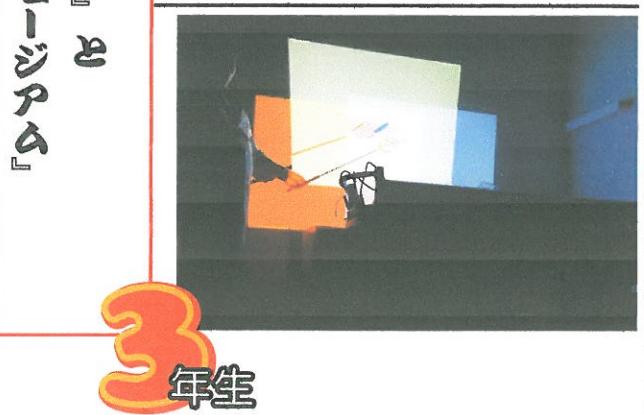
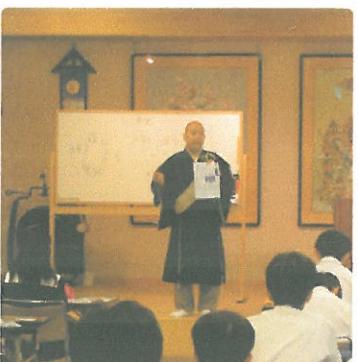
木村さん
「小さい頃から習字を習つていて、今は忙しくてやめただけれど、習字が大好きでした。今回の写経がとても楽しみで、筆を持った時はとても懐かしかったです。久しぶりの習字がとても楽しく感じました。」

大阪市立科学館に到着すると先ず三階の「サイエンスコーナー」で、サイエンスショールームを見学しました。今回のテーマは光の三原色を使った「赤・青・緑」の三原色でした。「赤・青・緑」はRGBと呼ばれ、私たちの身近なテレビやパソコンのモニターなど様々ななところに使われています。この三色の光の組み合が、普段あまり意識せずに生活しています。この三色の光の組み合をさせによつて様々な色を表現され

ショーンの後は、個々に館内を見学し、様々なアトラクションを楽しんでいました。

昼食を終えて、いよいよ「プラネタリウム」です。心地よいシートに腰をしづめ、ドームスクリーンに映し出される星空を見上げながら、ゆったりとしたレーションに耳を傾けていると、日頃の喧騒もどこかに忘れて夢の中にいるようなひと時でした。

『大阪市立科学館』と 『大阪企業家ミュージアム』





さて、夢の後は現実の世界。二月の文理選択や将来の職業選択の参考にするため「大阪企業家ミュージアム」を訪問しました。ここは、大阪を基盤として起業し、大企業へ成長を遂げられた会社を創業された一〇五名の企業家の資料が展示されていました。先ず講義室で日清食品の安藤百福さん、江崎グリコの江崎利一さん、大和ハウスの石橋信夫さんらの創業時のエピソードや企業理念などをアーメ・写真を使って分かりやすくお話をいただきました。

最後は三つのグループに分かれ、それぞれスタッフの方に館内を案内していただきました。

大阪企業家ミュージアムには、私たちになじみのある会社を作った人たちの紹介がありました。この人たちには共通して、「誰かの役に立ちたい」という思いが感じ取れました。また、普通なら挫折してしまふようなところでも諦めずに最後までやり抜くことにすごさを感じました。（西澤さん）

生徒感想

ここに展示されている企業家は、時代の変化と人々の暮らしや社会のニーズをいち早く察知し、果敢なチャレンジ精神とたゆまぬ意勇にて来られたそうです。



「本藍染」は、手ぬぐいやTシャツに輪ゴム、割り箸、クリップなどを使って縛り、絞り染めを行いました。染料が入った穴から出すまでのどんな作品になつてゐるかわからぬいため、自分の作品が思ひ描いた通りに染まるのかどうか、緊張と期待感を持ちながら、穴の中を覗く姿が印象的でした。自分の子どもが染料で手を真っ青に染めて帰ってきたのを見て驚か

れた保護者の方もいたことでしょう。彼らの頑張った証です。

「織織」は、様々な色の糸を紡ぐとことから始まります。そして、自分で簡易の織機を作り、それ自分で簡単に染めます。この作業は自分の好きな色を順番にひたすら紡いでいくのです。集中力と根気を必要としますが、どの生徒も自分の織機と睨み合いながら自分の作品を作つてきました。



奈良芸術短期大学の先生方のご指導により、「ステンシル」、「本藍染」、「綴織」をグループに分かれて体験しました。

ステンシル・染色・綴織



どのグループも、出来た作品を満足げに友達や先生に見せ合つている様子から、この体験の日が大成功に終わったことを知ることができました。

「ステンシル」は、ランチョンマットに好きな絵をデザインし、それに色を付けて完成させるという体験でした。それが自分の日のために描く絵を前から決めていたのか、描きたい絵の雑誌やカタログを持ってきている生徒もいました。色付けのときには、それぞれの生徒の新たな一面を垣間見ることができます。頭の中で先に絵の完成体を描き、どんな色にしようか熟考する生徒がいる一方、失敗を全く恐れずにどんどん直感のままに色をつけていく生徒もいました。

大阪税関関西空港支署と 関西空港

第四回

九月一日（木）は、いにくの空模様でしたが、三年生は、キャリアプランニングの一環として、「大阪税関関西空港支署」と「関西国際空港」の見学でした。

予定より少し早く関西国際空港に到着しましたので、まず来年の修学旅行に備えて、リムジンバスの到着場所や、出発前の集合場所の確認を済ませました。

午前中は大阪税関関西空港支署で、貿易の円滑化や、輸入品への関税の徴収、知的財産権を侵害するコピー商品や身体や社会に害を及ぼす薬物などの流入を水際で未



然に防ぐ等の税関業務について教えていただきました。また、二グ

ループに分かれて、実際に密輸に

使用・押収された改造スースケー

スや靴、精巧に模造されたブランドバッグなどのコピー商品を見せ

ていただき、空港内の手荷物

検査場を見学させていただいたり

しました。中でも実際に目の前で

麻薬探知犬のデモンストレーションには、生徒たちも大喜びで拍手

喝采していました。



このツアーは、普段は立ち入ることのできない保安区域を車窓見学することができます。機内食工場や航空貨物のターミナル、燃料タンクなどを左右に見ながら、航空にまつわる知識をクイズを交えて教えてくださいました。途中で下車して滑走路の近くで飛行機の離発着を目撃することができました。

天候には恵まれない一日でした

が、中身の濃い一日になりました。

第一日目、宿舎到着後すぐに開講式をし、校長先生からご挨拶をいただきました。

昼食の後はいよいよ勉強漬けの三泊四日の始まりです。

今年は自由時間を出来るだけなくすため、自習をしながら順番の時間になれば入浴・・・という方法をとりました。また、例年より就寝時間を一時間早め、起床時間を六時にして軽く体操をした後、朝食前に一時間の学習時間を設けました。軽く体を動かした後はさっぱりした様子で、出される課題を解いたり、復習をしたり、

折からの雨で、当初予定していることはできず、スカイビュー内の部屋をお借りして食事することになりました。昼食後は、スカイミュージアムで航空関係の職業を学習しました。特にコックピットのシミュレーションではパイロットの気分を満喫していました。そして最後はバスに乗って、「関空の裏側探検コース」のツアーです。

このツアーは、普段は立ち入ることのできない保安区域を車窓見学することができます。機内食工場や航空貨物のターミナル、燃料タンクなどを左右に見ながら、航空にまつわる知識をクイズを交えて教えてくださいました。途中で下車して滑走路の近くで飛行機の離発着を目撃することができました。



《生徒感想抜粋》

税関では実際に麻薬探知犬を見せていただきました。麻薬の臭いを嗅ぎわけて、その臭いがするとその場に座ります。犬も麻薬を探知犬を見せていただいた後、偽ブランド品や実際に麻薬を隠していた物などを見せていただきました。
(小代さん)

学習合宿 ● 前期課程

前期課程百五十七名は、八月一二十四日(月)

から二十七日(木)まで吉野山「芳雲館」で学習合宿を実施しました。





環境美化部

環境美化部では6・7月の活動として、プランターの植え替え作業を行いました。環境美化委員の生徒が中心となり、土入れから花の植え付けまで、一生懸命に作業を行ってくれました。事前指導された内容に従い、慎重かつ丁寧に、そして楽しく50個のプランターを完成させてくれました(今回はベゴニアの花を植えております)。

また、環境美化部では、月に一度校外清掃を行い、駅だけに限らず、地域の方々や、生徒達が普段使用している通学路の美化活動にも、より一層力を入れております。6月は4-2、7月は1-1が実施してくれました。生徒達自身が、奉仕・清掃活動の必要性を実感し、率先して実行に移せるよう、今後も指導して行きたいと考えております。

二、三年生にとっては初めての経験でしたが、合宿後に迫っていた中間B考査での成績をあげるため、苦手教科を克服したいと考えていました。

一年生は慣れた様子で、「挨拶」や「集合」等一番の思い出は早起きや勉強のしんどさではなく、バラエティーに富んだ美味しいお食事だったということですが、自分で課題をみつけ勉強する習慣をつける「きっかけ」になってくれればと願っています。

それが一生懸命取り組む姿が見られました。

最終日は十四時半の閉講式まで授業をし、一二年生、三年生に分かれて吉野駅で解散しました。

一年生にとっては初めての経験でしたが、合宿後に近づくにつれ心配していた雨がついに降りだしてきましたが、京奈和道のおかげで、約二時間で宿坊『蓮華定院』に無事到着できました。

この宿坊は真田家ゆかりの寺院として有名で、入り口には真田家の家紋である「六文錢」が描かれた提灯が掛けてありました。

開講式では、学園長先生から合宿の意義や激励のお言葉をいただき、昼食後、クラスごとに別れて四日間にわたる勉強合宿がスタートしました。五学年では、できるだけ自主學習の時間を少なくし、可能な限り講義形式による実力養成と学力補充の両面から生徒に迫ることにし、ある先生は四日間で二十二時間も講義を行ってくれました。

二日目の午後八時からは、真言宗総本山宗務総長の添田隆昭住職(蓮華定院住職・本校卒業生の父親)より、約一時間にわたりユーモアを交えたご講演をいただきました。二日目とはいって、勉強に疲れた心身にほつと止まることがないんだとつくづく感じる一時を与えていただいたように思いました。

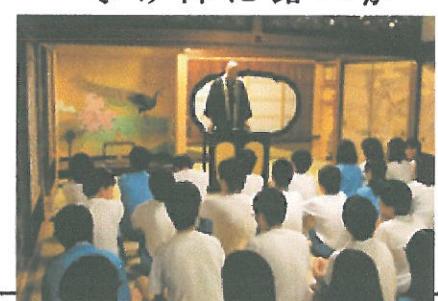
毎日ほど小雨にみまわれた四日間でしたが、気候は一足早い秋のよう

で、そうした恵まれた学習環境のな

か、子供たちはそれなりの成果をあげてくれたように思います。勉強合宿中、何よりも体調不良の生徒がでなかつたことは引率者としては一番感謝すべきことでした。

- ☆ 通学マナーを守りましょう
- ☆ 身だしなみを整えましょう

生徒部より



(お礼)
保護者会ならびに、前号の「たけのこ」において、「生徒登校時間帯の学校近辺への車の乗り入れ自粛」についてお願いしましたところ、皆さまのご協力のおかげで昨年度より混雑が少なくなりました。ありがとうございます。引き続きご理解賜りますようよろしくお願いします。

ストの着用は、その日の気候・体調に合わせて着脱してよいとしました。上手に着こなして欲しいと思います。

そしてこれから季節は、日が暮れるのも早くなります。下校時通学路は、ところどころ街灯があるものの一歩道を外れれば、隣の人の顔も分かりにくいくらいの暗さになります。学校では、最終下校時に教員が辻々に立って下校指導しています。

また、それ以外の時間は、必ず複数人で下校するよう指導しています。しかし、それでも毎年数件の不審者被害(露出が主)に遭っています。そしてそれは、決まって一人で下校している時に起こっています。学校を一歩出ると自分の身は自分で守らなければなりません、それは、事件事故に巻き込まれない環境を自分で作るしかないということだと思います。

ご家庭での複数人下校の声掛け、また、最寄り駅から家までの安全指導等ご協力よろしくお願ひします。



夢！広がる



前期課程「講演会」

『宇宙開発と私たちの未来』

九月二日（水曜日）、宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙教育推進室から工学博士・清水幸夫先生をお迎えし、『宇宙開発と私たちの未来』というテーマで、前期課程の生徒百六十名が、宇宙にまつわるお話を聴かせていただきました。



第一部は、私たちが生活している日常の中にも宇宙開発技術が活かされているという身近なことから、宇宙開発に携わるにはどのよ

うな学部で、どういう学問をすれば良いのかという、中学生が進路選択をする際に役立つお話や、「はぶさ」「はやぶさ2」等の探査機、「太陽系の生命存在の可能性」についてと「宇宙旅行の可能性」についてと、壮大なお話を聴かせていました。

生徒たちは、清水先生のお話を惹き込まれ、時間が経つのも忘れて真剣に耳を傾けていました。



JAXA 講演会

第1部



第2部『座談会』



お話を内容に併せて、ハッブル宇宙天文台が写した銀河系や太陽系の画像、ロケット搭載カメラからの映像など、普段目にしてしまう。また、要所要所で検事さんや事務官の方から解説をいただき、生徒たちは裁判の手順などがよく理解できたようでした。

最後に、検事さんから、今回の裁判について「有罪」「無罪」どちらだと思いますか?などの質問を受け、活発に意見を交換していました。

五分間の休憩をはさんだ後、第二部は、各クラスの代表生徒が舞台に上がり、清水先生を囲んでQ&Aのコーナーを持っていただきました。清水先生は、十三名の生徒の質問に対し、一つひとつ丁寧にお答えくださいました。

最後に、三年生の樹田君が謝辞を述べ、同じく三年生の富士さんがお礼の花束を贈呈し終了しました。

二時間の予定を三十分も超える講演会でしたが、その後もお持ちいたいたい「隕石」を見せてくださいました。生徒たちにとって、充実した時間をいただきました。

模擬裁判

九月三十日、第三学年は、奈良地方検察庁のご協力を得て、

「模擬裁判」を実施しました。



十月に実施する「体験の日」、大阪地方裁判所での裁判傍聴の事前学習と、キャリアプランニングの一環として模擬裁判を行いました。

当日は、奈良地方検察庁の検事さんや事務官の方々にお越しいただいてご指導を受けました。事前にご準備くださった台本をもと

